

の傾斜や、クレバス、雪の状態までみてとり、地形と風向から進入路を決める。着陸体勢に入れば全神経を一点に集中している。飛行場に降りる時の顔とは大違いである。初めての場所なら、これほど結斷力のいる時もないだろう。そして見事成功すれば、大きな声で得意満面である。横にいる我々としても決して気楽でいられるわけではない。とにかく不時着に近いものであることは、初めて乗ったものでもわかる。しかしこの飛行機は、かってに、かならず着陸するものだと思わなければ、最初から乗れるものではない。着陸後一番早く緊張を解くのはシエルダンである。恐怖の余韻を残して、やゝ呆然としている我々を、彼はもちまえのユーモアで我にかえしてくれる。パクソンで私達を不安にさせた彼のユーモアには、こんな効果があったのか。今にして思えば、飛行機が着陸するまで、彼は雇われた操縦士ではなく、我々の先導であり、リーダーであった。彼はその役目を彼の性格なりに、よく果していたと思う。とにかく現地で彼のことを悪く言う人がいなかつたのは、彼の人柄であろう。アラスカでは、ちょっとした有名人であり、土地の人は大抵の名前を知っていた。商売がら、学者や写真家、富豪とのつき合いもあるらしく彼自身も博識がある。会社の経営も、観光会社とのつながりをちゃんともっていて、なかなかのやり手らしかった。またその反面、素朴な生活態度で人づき合いもやわらかい。やゝワンマンなところもあるが自分に厳しく、強い生活信条をもっていた。何よりもこの広大な土地で自由に生きているという感じが、私達にはうらやましいところであった。彼はやはり開拓時代の流れをくむ人間であろう。

17 アンカレッジ・ガイド

松 本 繁 文

ヨーロッパへの通り道的存在のアンカレッジは、我々が着いた時空港の玄関道路など工事中でまだ、これから新しい町という印象を受けた。空港よりダウンタウンに向うにつれ軽飛行機の需要が高いのであろう湖には水上飛機、道路横には、小さな飛行機がありセスナ機、パイパー機がずらーと並んでいた。ダウンタウンに入っても地震が多いせいか高い建物はなく敷地を

十分とった平屋の家がきれいで区画され建られている。にぎやかな通りに入っても高い建物も数える程のビルしかなく、たいへん平面的な町である。道路も碁盤の目のように、あまりにもきっちりしているためなにかサップウケイな感じである。我々は初め2~3泊Y.M.C.A.に泊っていたがY.M.C.A.が2日1人4.50ドルめしがサンドウィッヂが1.35ドルなどで昼めしだけでも1人1日2.00ドルはどうしてもいる。しかしY.M.C.A.はダウンタウンの真中に位置したいへん便利であったが我貧之隊は、より安くアンカレッヂで生活するため、ダウンタウンより車で10分程のオートキャンプ場にテントを張りレンタカーを貸りスーパー・マケットで食糧を買い炊事することにした。レンタカーは1日13ドルめしは晚朝で1人1ドル、キャンプ場は車一台で1日2ドルなのでたいへんめしもボリュームのあるものが食えキャンプ場の中には、シャワー等もあり快適な生活であった。またアンカレッヂでの足である車があったことは、いろいろな渉外をスムーズに運ぶのによかった。

普通日本からの登山隊はニッコーガーデンというレストランの主人の経営するアパートの一室を貸りざこ寝をしているそうだが、そのような日本隊も多く、アメリカまで来て日本人同志いっしょにいるよりもという意からもキャンプ生活は外人ととの接觸が多く、たのしいものだった。はじめ泊ったY.M.C.A.も大きな室に2段ベットが並べてあり上のベットはドイツ人横のベットはフランス人といったぐあいに外人ととの接觸が多く、おもしろい所である。ただ無用心なのが少し不安ではあるが、ダウンタウンの様子は、サマーシーズン前とは、たいへんちがう、ぼくらが着いた6日などは人通りもそれ程なく静かな町であったが下山して来てからのダウンタウンは、旅行者でにぎやかだし、歩道には花が置かれ空軍のサンダーバードによるジェット機のショーなどもあり山に入る前とはかなりちがった感じであった。